



撮影 岡戸雅樹

● 講 師 ●

上 野 千 鶴 子 先生

Chizuko Ueno

Profile [プロフィール]

1948年富山県生まれ。京都大学大学院社会学博士課程修了、平安女学院短期大学助教授、シカゴ大学人類学部客員研究員、京都精華大学助教授、国際日本文化研究センター客員助教授、ボン大学客員教授、コロンビア大学客員教授、メキシコ大学院大学客員教授等を経る。1993年東京大学文学部助教授(社会学)、1995年から2011年3月まで、東京大学大学院人文社会系研究科教授。2011年4月からNPO法人 ウィメンズアクションネットワーク(WAN)理事長。

専門は女性学、ジェンダー研究。この分野のパイオニアであり、指導的な理論家のひとり。近年は高齢者の介護問題に関わっている。

1994年『近代家族の成立と終焉』(岩波書店)でサントリー学芸賞を受賞。『上野千鶴子が文学を社会学する』(朝日新聞社)、『差異の政治学』『生き延びるための思想』(岩波書店)、『当事者主権』(中西正司と共著、岩波新書)、『ニーズ中心の福祉社会へ』(中西正司と共編、医学書院)『岩波シリーズ ケア その思想と実践』(共編著、全6巻、岩波書店)、『世代間連帯』(辻元清美と共著、岩波新書)、『家族を容れるハコ 家族を超えるハコ』(平凡社)、『老いる準備』(学陽書房)、『おひとりさまの老後』『男おひとりさま道』(法研)、『ひとりの午後に』(NHK出版)、『女ざらい』(紀伊國屋書店)など著書多数。近刊に『女は後半からがおもしろい』(坂東眞理子と共著、潮出版)、『結婚帝国』(信田さよ子と共著、河出書房)、『不惑のフェミニズム』(岩波現代新書)、『ケアの社会学』(太田出版)、鼎談『フェミニズムの時代を生きて』(岩波現代文庫)、『現代思想 総特集 上野千鶴子』(青土社)。最新刊にDVDブック『生き延びるための思想』(講談社)。2012年度朝日賞受賞。

ナカノ在宅医療連携拠点センターの開設理念

1

医療法人ナカノ会(ナカノ在宅医療クリニック、ナカノ訪問看護ステーション)で開業以来過去13年間構築してきた多職種連携で機能する地域連携ネットワーク型在宅医療システムで得た経験、知識を、鹿児島地全域に拡充を図り、鹿児島市内での地域包括ケアシステムの構築を目指し、在宅医療連携拠点として機能する。

2

積極的なICTの活用により、鹿児島市内の鹿児島市民と医療・介護サービス提供者、行政の情報交換、情報共有を図り、教育、啓蒙支援を行うとともに、多職種連携で機能する効率的な医療・介護サービスシステムの構築を目指す。

3

在宅医療・介護の研究、教育支援機関として機能する。